

(2) 地域社会の特色

① 地理的

県のほぼ中央に位置する多久市の中で、本校校区は南部の南多久町と北部の北多久町からなり、校区は南北に広がっている。

本校は、南多久町の北端にあって、その北を東西にJR唐津線が通っており、JR中多久駅は本校の西500mのところにある。また、南多久町、北多久町をそれぞれ横切る形で県道多久・長尾・牛津線と国道203号線が東西に走っており、車両の交通量も多い。

昭和62年3月18日には九州横断自動車道が開通し、多久インターでの乗降車両も増加している。

行政区別生徒数

地区名	田柄	大野	笹原	谷下	西山	井上	牟田	桐野	庄	西の谷	中小路	上田町	長尾	瓦川内	後野	平原	駄道	天ヶ瀬	相の浦	両の原	大工田	原口	申川内	松ヶ浦	岸川
計	6	6	10	5	1	0	13	4	0	10	8	7	49	10	0	0	0	0	2	15	5	14	0	2	3

地区名	メイプルタウン	四下	多久原	中山	中の原	山犬原	自由ヶ丘	東原	前田	小侍	横柴折	あざみ原	高木川内	新栄町	砂原	立山	中多久1区	中多久2区	浦山	泉町	番所	旭町	町外	合計
計	40	11	68	3	6	37	24	4	7	10	3	57	47	6	110	4	32	37	39	72	3	1	5	796

② 産業・経済的

南部の南多久町は農村地帯、北部の北多久町は商工業地区と農村地帯に分かれるが、両町とも山間部では果樹栽培（みかん）がみられる。

多久インター付近を中心に、工業団地が造成されており、今後の経済的影響が期待されるところである。

③ 教育・文化的

P T Aをはじめ各種教育団体は、きわめて協力的で理解がある。また、町民の教育への関心は高く、促進発展的である。平成25年度からは小中一貫校が開校し、平成29年度には義務教育学校となった。今後の地域の学校教育に対する関心は新しい段階に移ってきているといえる。

文化的には、校区内に市役所、中央公民館、図書館、警察署、消防署、多久高校、中央公園のスポーツ施設等があり、多久市の中心をなしている。

④ 教育上特に配慮すべき点

イ. 平成29年度より義務教育学校となり、9年間の連続性を生かした育実践を充実し、コミュニティースクールとして地域との連携を図る。

ロ. 生涯学習の基礎を培う観点から自己教育力の育成を図る。

ハ. 校区の広さ、道路事情等を考慮に入れた登下校指導・安全指導を行う。